

# 名古屋 文化情報

2020  
11・12  
November / December

No. 395  
NAGOYA  
Cultural  
Information

随想／浅井 信好 (演出家・振付家・舞踏家)

視点／「紙の本」には顔がある

この人と…／澤脇 達晴 (バリトン歌手・名古屋演奏家ソサエティー代表)

ピックアップ／芸能集団・創の会 創作舞踊劇「名古屋城天守物語」

いとしのサブカル／坪井 篤史 (シネマスコーレ副支配人)



2020

11・12

November / December

Contents

名古屋市民文芸祭 小・中学生の部 受賞作品…………… 2

随想 コロナ禍によって切り開く未来  
浅井 信好(演出家・振付家・舞踏家)…………… 3

視点 「紙の本」には顔がある…………… 4

この人と…  
澤脇 達晴(バリトン歌手・名古屋演奏家ソサエティー代表)… 6

ピックアップ  
芸能集団・創の会 創作舞踊劇「名古屋城天守物語」…………… 10

いとしのサブカル 映画に最上級の片思いを  
坪井 篤史(シネマスコーレ副支配人)…………… 11

おしらせ…………… 12

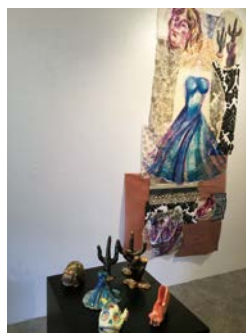
表紙

作品

青いドレス

(2018年/陶：和紙にアクリル ラッピング紙：壁紙  
絵：208×110cm 陶：70×70cm(台の大きさ))

陶のオブジェをつくり、自作した和紙にそれを描き、両方を展示する。スペースに合わせ、テーマを決め、インスタレーションしていく。「作品を観る人が楽しい気持ちになれる様に」というのが一貫している想いである。



浅田 泰子 (あさだ やすこ)

略歴

- 1988年 愛知県立芸術大学大学院油画科卒業
- 2012年 ペイサンポール現代美術シンポジウム/カナダ
- 2013年 私を構成するモノ/愛知県立芸術大学サテライトギャラリー
- 2017年 和紙素材の研究展/ブルックリン NY
- 2020年 きそがわ日和garden/美濃加茂市

インスタグラム yasukoasada

ナゴヤ・アーティスト・エイド Yasuko Asada(動画配信予定)

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 杵屋六春 (長唄・唄方 名古屋音楽大学講師)
- 鈴木敏春 (美術批評・NPO法人愛知アートコレクティブ代表理事)
- 濱津清仁 (指揮者)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽおと代表)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座 制作部長)

◆名古屋市長賞◆

「託されたもの」

名古屋市立供米田中学校3年

渡辺 美愛

透き通る風のかなた  
幾千も、幾万も、幾億もの  
歌声が聴こえる  
重なる旋律は  
たましいの  
いろを含んで響き  
空のてっぺんを震わせた

押し寄せていた  
さざ波の声  
音の洪水  
祈りは  
ふうつと止み  
光が瞬いた  
またおいで

こんこんと湧く泉のような  
青い葉が体をゆするような  
ことばが流れる  
しあわせだった  
うん

目を覚ますと  
八月十六日だった

どこにいても  
分かっているな  
やっぱり届かない  
遊ぼう  
ねえ、聞こえたよ  
もういいや  
会いたい  
苦しい  
きつと知らない  
誰か伝えて  
ああ  
きみは  
きこえている  
つたえられる

「2019年 名古屋市民文芸祭」  
(第七十回名古屋短詩型文学祭) 小・中学生の部  
詩の部 受賞作品より ※受賞時の学校・学年で掲載しています。

## 随想

## コロナ禍によって切り開く未来



©佐藤良祐

あさ い のぶ よし  
**浅井 信好**(演出家・振付家・舞踏家)

元山海塾舞踏手。文化庁在外研修員としてイスラエルのバットシェバ舞踏団に派遣。2012年～2016年までパリを拠点にピエールミロワールの芸術監督を担当。これまでに、グッドデザイン賞、ARTE LAGUNA AWARDなど多数受賞。現在は月灯りの移動劇場とダンスハウス黄金4422代表を務める。

現在、舞台芸術業界は新型コロナウイルスの影響により、表現をする場の多くを失いました。ある統計では、アーティスト活動で生計を立ててきたアーティストの48%が活動を諦めようと考えているといわれています。しかし、私は常に、アーティストは、文化芸術の意味や本質をゆるぎなく問い続け、意欲的に創作や自らの姿勢を発信していくことが必要不可欠と考えています。同時に芸術が今、何をすべきかを問われているのではないのでしょうか。

本来、芸術とは全ての人々に開かれた「公共のもの」であるからこそ、芸術は観客によって守られ、その活動が支えられてきました。しかし、現在はソーシャルディスタンスの保持が厳しく求められ、劇場では「健康を守る」という公共性を最優先事項として考えていかなければいけません。芸術は観客の存在によって、育まれてきたからこそ、それを守ることはとても大切なことです。だからこそアーティストは、どのような状況下でも、芸術と観客を繋ぐ方法を模索し続ける使命がありますし、あらゆる制約があることも、創作のための課題を与えられたと考え、新たな方法を社会に提示していくことが必要です。

私が代表を務める月灯りの移動劇場やダンスハウス黄金4422も、コロナ禍の影響を大きく受けまし

たが、常に作品と観客をどうすれば繋げることができるのかを問い続けてきました。ダンスハウス黄金4422では、世界各国の一流振付家に依頼し、100プログラムを超えるオンラインワークショップを開催したり、これまで劇場として使用していた場所に「PEEPSHOW劇場」という舞台セットを設置し、アーティストが数日間、滞在制作をした後、自身の創作プロセスを紹介する配信番組「PEEPSHOW～アーティストの素顔を覗き見る」をスタートしています。

月灯りの移動劇場は9月18日に特設野外劇場での初演にむけて、名古屋市の中高生を起用した「KOKO TO SOKO」という作品の準備を4月から進め、オンラインとオフラインを使ったクリエイションを行いながら、同時にそれらの創作過程を記録したドキュメンタリー映画も製作しました。12月からは、新たにソーシャルディスタンスを維持しながら、舞台鑑賞をできる移動劇場のお披露目を控えており、県内ツアーも予定しています。

今の状況に一喜一憂するのではなく、芸術が社会に対して何を届け、提示することができるのか、そして、芸術と観客を繋げることで新しい未来を、どのように創造していくことができるのか問い続けています。

# 「紙の本」には顔がある

電子書籍がこの世に現れて、昔からあった本は「紙の本」と呼ばれるようになった。本は紙に決まっているのになどと毒づくのは、もはや古い人間の証なのかもしれない。そうしたなかで本を愛して、著者と読者をつなごうと心血を注ぐ人たちがいる。今回は本の顔の作り手であるブックデザイナーに焦点を当ててみた。  
(まとめ：山本直子)

## 本のいろいろな顔

最近はおもネットで購入の人が多。必要な本を手に入れるだけならネット書店で事足りるかもしれないが、今の書店は読者のためにさまざまな工夫を凝らしている。表紙が見えるように本を並べ、その並び順にも気を使い、著者のサイン色紙を飾る。目的の本を手にした後も、つい近くの本に手が伸びるような仕掛けになっているのだ。

こんな本がある、あんな本があると棚から手に取って、ぱらぱらめくって、また棚に戻す楽しみは、実際に書店に行かないと味わえない。それに、

書店の棚の間をぶらぶらしていると思わぬ発見もある。

先日ブックデザインについて考えながら、丸善名古屋本店の文芸書売場を徘徊していると、次のような本を見つけた。見つけた順に『黄色いマンション黒い猫』（小泉今日子 スイッチ・パブリッシング）、『おいしいおしゃべり』（阿川佐和子 幻冬舎文庫）、『パラギ』（エーリッヒ・ショイルマン 岡崎照男訳 SB文庫）。小泉今日子さんも阿川佐和子さんも、名エッセイストだ。表紙の似顔絵を見れば、和田誠さんによるものとすぐにわかる。『パラギ』は1981年に単行本が出て以来売れ続けているベストセラーだ。2009年に文庫化されているが、装丁は単行本と変わっていない。これも、和田誠さんの仕事だ。やはり、まずは、和田誠さんから始めよう。



丸善名古屋本店文芸書売場



丸善で見つけた和田誠さんが装丁した本

## 和田誠さんの装丁

和田誠さんは2019年10月7日に肺炎で亡くなった。83歳だった。和田さんのもっとも知られている仕事は「週刊文春」の表紙絵とデザインなのかもしれない。この仕事は1977年5月12日号に始まり、40年を経過して2000回に到達した2017年7月27日号からは、過去の傑作選によるアンコール企画が今も続いている。「週刊文春」の顔として、すっかり定着していることになる。

和田誠さんはイラストレーターであり、グラフィックデザイナーであり、エッセイストであり映画監督でもあった。その和田さんに、私も一度だけ装丁をお願いしたことがある。2008年に刊行した中山千夏さんの『海中散歩でひろったリボン ポニン島と益田一』（ゆいぽおと）。千夏さんと和田さんとの強いつながりがあって、名古屋の小さな出版社の刊行物に和田誠さんの名前が刻まれることになった。カバー表にはリボンと帆船とシマキツネベラ、カバー裏には月夜に愛をささやく恋人たちとルソンベニテグリ、そして、カバーソデ（折り返しの部分）には小笠原諸島が描かれている。和田さんは『装丁物語』（白水社）という貴重な著書を残しているが、そこには「装丁は内容を正確に伝えるものでないといけないと思っている。固い本は固く、地味な本は地味に装丁したい。そうでないと看板に偽りがあることになるし、この装丁者は内容を理解していないと言われかねません」とある。ポニン島（小笠原諸島）と益田一さんへの千夏さんの熱い思いをしっかりと受け止めて、それを具現化したブックカバーは10年以上経った今も、色あせることはない。



『海中散歩でひろったリボン』の表と裏表紙

## となりの人を感動させる

名古屋にも本をデザインする人がいる。夏の暑い日、熱田区にあるTOKIデザイン室を訪ねた。主宰する坪内祝義とくよしさんは1946年、岐阜県生まれ。岐阜県立多治見工業高校デザイン科を卒業後、地元の特種製紙（現・特種東海製紙）株式会社に

就職。紙の勉強をしながら、第19回日本宣伝美術協会展に命をかけた作品「飛騨民具のはなし」を応募し、奨励賞を受賞した。これが契機となって東京にあるデザイナーあこがれの田中一光デザイン室に入社。そこでポスターやカレンダーをはじめロゴマーク・サイン計画などグラフィックデザイン全般を担当してデザインの腕を磨いた。田中一光デザイン室ではブックデザインも手がけていたので、仕事の流れは見ていたが、実際にブックデザインをするようになったのは、1982年に独立してからのこと。

東京にはブックデザイン専門のデザイナーが何人もいて、なかには1000冊以上手がけたというつわものもいるらしい。坪内さんは8年前に故郷に近い名古屋に仕事場を移している。ポスターやカレンダーのデザインもしながらこれまでに手がけた本は数百冊。訪ねたときには、「文字ものは名古屋に来るときに整理してしまったからね」と言いながら、数十冊の本をデスクの上に準備してくださっていた。

「アートセレクションシリーズ」(小学館)、荒俣宏「帝都物語」全6巻(角川書店)、「日本文化 私の最新講義シリーズ」(敬文舎)などのシリーズもののほかに、中村征夫『白保』(情報センター出版局)、藤原新也『メメント・モリ』(朝日新聞出版)などの写真集や藤森武『丹波の名陶』(求龍堂)などヴィジュアルブックが多い。写真集は使う写真をどのように並べるか、キャプション(写真の説明)をどう入れるかも考える。そのときに大切なのは、だれのために本をつくるのかということ。カメラマンと読者の間に立って橋渡しをすることがデザイナーの仕事と心得ている。そして、とりにいる人、たとえば家族やスタッフが感動する本をつくりたいと言う。それは、東京にいても名古屋にいても同じこと。いきなりニューヨークの人を感動させるのではなく、自分のとりの人を感じさせることができれば、それがそのとりの人、そのとりの人とつながっていく。



TOKIデザイン室で坪内祝義さん  
TOKIデザイン室ウェブサイト  
<http://tokitsubouchi.web.fc2.com/>

## デザインも、となりの人の気持ちを考えて

デザイナーだからデザインだけをしていればいいかというと、それは違うというのが坪内さんの考え方だ。たとえば、豆腐を売っていたら豆腐を作っている人のことを考える。となりの人の気持ちを考えると、先が見えてくる。先が見えてくればパッケージデザインも変わってくる。

かつて、石川賢治の写真集『月光浴』(小学館)を担当したときにこんなことがあった。企画書では縦長のふつうの開きの本になっていた。しかし、写真を一枚ずつ見ていくと、縦長の紙面では写真をこわしてしまうことがわかった。横長の紙面でないと、この写真の良さは伝わらない。編集者も納得して慌てて社にもどり、稟議書を出し直したという。横長の本は製本代がかさむので、あらためて上司の決裁を受ける必要があったのだ。写真集完成と同時に、ラフォーレ原宿で展覧会を企画し広告を打った。駅にも大きな告知ポスターを張った。もちろん、坪内さんがデザインしたポスターだ。ラフォーレ原宿始まって以来の人が並び、写真集が飛ぶように売れた。デザイナーのとなりにいるのは出版社の人。出版社の人は本がたくさん売ればうれしい。大勢の人たちに本が届けられることは、まさにデザイナー冥利につきると坪内さんは言う。



石川賢治 写真集『月光浴』(小学館)

坪内さんによれば、となりの人を喜ばせることが仕事の基本で、となりの人をたくさんつくっておくと楽しいという。取材の帰り道に「となりの人」について考えた。それはSNS上のだけかではなく、お互いに顔も名前も歳も趣味も、もしかしたら家族のことも知っているような人ではないだろうか。「となりの人」とたくさん知り合いになるためには、スマホの画面を見ている暇はないような気がしてきた。



宮内庁三の丸尚蔵館/  
東京文化財研究所編  
『伊藤若冲 動植綵絵』(小学館)



平野英夫著 藤森武写真  
『囊物の世界』(求龍堂)

# この人と...



## バリトン歌手 名古屋演奏家ソサエティー代表

さわ わき みち はる

## 澤脇 達晴 さん

なごや文化情報393号「ピックアップ」において、筆者は名古屋芸術大学出身で世界で活躍する声楽家の笛田博昭、伊藤貴之、中井亮一の三氏を取り上げた。その伊藤氏を育て上げた澤脇達晴さんは同大学にて1981年以来、長きに渡り教鞭を執り続けている。2004年に名古屋市芸術奨励賞、第19回パチンコ大衆文化・福祉応援賞、名古屋芸術大学功績賞を受賞。バリトン歌手にとどまらず、名古屋演奏家ソサエティー代表を務め、さらに指揮や演出など様々な挑戦を続ける澤脇さんにお話を伺った。

(聞き手：濱津清仁)

### 指揮者になりたい?!

澤脇達晴さんは1950年12月8日、静岡県静岡市に生まれた。静岡市立井宮小学校にて鼓笛隊で初めて指揮を経験し、「これはおもしろい!」と思ったことが音楽との出会だった。その後、静岡市立籠上中学校に進学。吹奏楽部に入部し、フルートを3年間続けた。吹奏楽部でも指揮することができ、さらに指揮への興味が湧いてきたとのこと。高校は静岡県立静岡東高等学校に進み、いよいよ指揮者の道を志したいとの想いが強くなり、先生に相談したが、「指揮者を志す者はもっと早い段階からいろいろな勉強をしているので、『遅い』と言われてしまった。指揮の勉強は断念したが、『歌はどうだ』とアドバイスをされた。歌であれば、変声期を過ぎてから訓練するものだし…」ということであった。「歌でも何でもいい、音楽家になりたい」という想いから、高校2年生から歌のレッスンに通うことになった。「当然、周りの生徒は自分よりも上手く、なかなか歌うことが好きになれなかった」と澤脇さんは振り返る。

### ニコラ・ルッチ氏との出会い

一年の浪人生活を経て、愛知県立芸術大学へと進学。石津憲一先生、加藤義也先生に師事し大きな薫陶を受けた。「はじめは歌が好きになれずにいたが、様々な困難を乗り越え、勉強を進めるうちに褒められることも増えてきて、大学3年生の頃には歌うことが次第に好きになれた。卒業後は、ピアノの先生やソルフェージュ(注1)の先生にでもなれば良いかなという程度に考えていた」と語る澤脇さんだが、声楽の道を突き進むことになる。

一層の研鑽を積むべく、東京藝術大学大学院に入学し、さらにレベルの高い音楽を学ぶことになる。そこで、イタリア人指揮者でオペラ科の客員教授だったニコラ・ルッチ氏と出会い、大きな影響を受けた。ニコラ・ルッチ氏のもとで、音楽の作り方、声の出し方など、それまでとはまた違った多岐に渡る視点から研鑽を積むこととなった。ニコラ・ルッチ氏は昔ながらの厳しい先生の典型的なタイプで、できない生徒は突き放された。何か間違えたりすると激しく怒鳴られるようなこともあった。今では考えられないことだが、当時はこうした教授法が主流であったように感じる。澤脇さんは、このような厳しい環境の中でメキメキと力を付けていった。

## 後進指導とオペラ歌手の両立

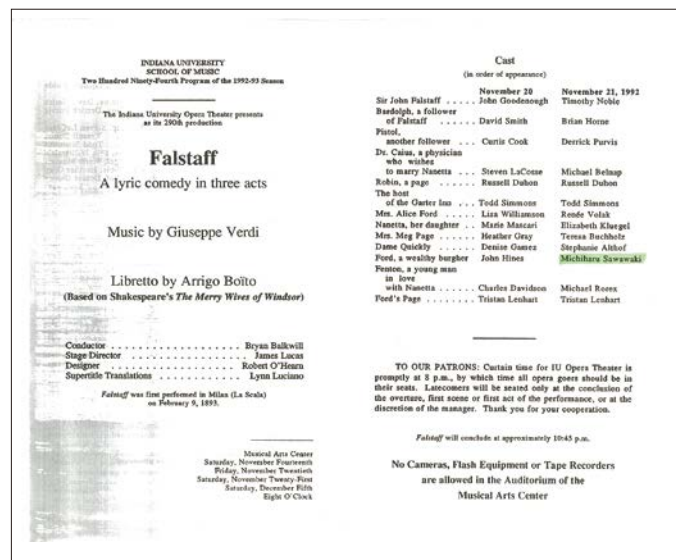
1981年に東京藝術大学大学院声楽研究科オペラ専攻修了後、ちょうどその頃、東京藝大出身で名古屋芸術大学音楽学部において助教授を務めていた植松峻氏が若手の指導者を探しており、植松氏と東京藝大の同期で、同大学で教鞭を執っていた長谷川敏氏の紹介をうけて、1981年から名古屋芸大にて指導にあたることになった。長谷川氏も澤脇さんと同じ静岡県出身で、同郷の澤脇さんの活躍ぶりを耳にされていたこともあり、こうした縁につながったのだろう。また1992年からは生まれ故郷の静岡県で常葉学園短期大学の非常勤講師として後進の指導にあたることになる。音楽の指導者としての活動と並行し、オペラ歌手として藤原歌劇団の団員活動も始めるが、指揮者の日程の都合に影響を受けたり、週の半ばを稽古に費やしたり、公演のため1か月間に渡り全国各地を回らなければいけないなど、藤原歌劇団の活動と指導者としての活動の両立が難しくなった。そこで、藤原歌劇団に在籍しつつも、大学での後進指導を中心に据え、可能な限りいろいろな出演オファーを受けたり様々な活動をする事とした。澤脇さんはコンクールでも高い評価を受けており、1978年には静岡県音楽コンクール第2位、1984年にはイタリア声楽コンクール第1位「シエナ大賞」、そして1989年にはオペラ新人歌手の登竜門と言われるニッカ・カルメンシータ新人賞の第5回でバルトン賞第2位を受賞する。

## 海外での活躍

澤脇さんは1992年から1993年の一年間、インディアナ大学にて客員研究員として研鑽。渡米中、特に印象に残っている出来事は、インディアナ大学の本部所在地であるブルーミントンにて、世界で5本の指に入るバス歌手、ティモシー・ノーブル氏と共演し、「ファルスタッフ」のフォード役を歌ったことだ。世界トップの歌手に間近に接することができ、大きな収穫があったと語る。さらに、「ルドンの悪魔」のマヌッリ役、インディアナ大学のゲストリサイタルなどに出演した。



1992年「ファルスタッフ」フォード役



「ファルスタッフ」プログラム

これと同時期の1993年にはオーストラリアのシドニー市のオペラハウス・コンサートホールにて「戦争レクイエム」のソリストとして出演する。この公演の管弦楽は名古屋芸術大学のオーケストラだったが、日本人ではないソリストとの共演となった。澤脇さんは、「この時、外国人のソリストの歌唱には言葉では言い表せない信仰に裏づけされた真実味があることを如実に感じた。オーストラリアには日本とは異なる文化がある。他にニューヨークでもスウェーデンでも宗教音楽を聴いたが、西洋の宗教音楽がピタッと来るのを感じた」と語る。それがきっかけで、澤脇さんは2001年、名古屋芸術大学とシドニー音楽院との交換教授として、声楽指導を行うことになる。

さらに澤脇さんは日本語によるオペラの海外公演に積極的に参加していて、1997年にブルガリアのエンデカホールにて「藤戸の浦」の盛綱役で出演した。

この時は作曲家尾上和彦氏が招聘されて、キャストがブルガリアに同行した。ちなみにキャストは全員日本人だったが、ピアノ、フルート、チェロという小編成のアンサンブルはブルガリア人だった。この公演では、事前にブルガリア語の解説もあり、和服での出演ということもあって、好評を博した。また、同じく1997年10月には、ニューヨークのカーネギー・ホールで幕末期の日本を



1997年「藤戸の浦」プログラム

描いたオペラコンサート「日本の夜明け」に下田奉行役で出演するなど、海外での活動も重ねていった。



1997年「日本の夜明け」公演の前日  
カーネギー・ホールの近くにて

また、澤脇さんは「学生の頃から、クラシックと同じぐらいジャズも好きだった」とも語る。2014年には、福山シティオペラの会員としても活動する広島県福山市にてミュージカルナンバーを歌ったりと、クラシックにとどまらないジャンルに活動の幅を拡げている。

## 新境地へ

子どもの頃からの指揮者の夢は、代表を務める名古屋演奏家ソサエティーの創作音楽劇「八岐大蛇〜ヤマタノオロチ」公演等で叶えたことはあったが、ついに長年の念願であったオーケストラの指揮をする日が到来する。2010年7月「岐阜国際音楽祭コン

クール&フェスティバル・コンサート」(岐阜県サラマンカホール)にて、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番(ピアノ:リー・チェン、管弦楽:セントラル愛知交響楽団)を指揮することになった。「感激の瞬間だった」と澤脇さん。しかし、「実際に指揮をするまでは易しいと思っていた緩徐楽章の指揮が難しく、クラリネットのソロは上手い指揮がないと大変で、さらにピアノがカデンツ(注2)を演奏している中に全合奏で和音を短く一度演奏するところがあり、ここを指揮するのはとても難しい。コンサートマスターに助けられた。歌も指揮も同じで力んで発声したり、振り上げたりすると、力んだ音が出ることを感じた。専門的に基礎から学ばないとまともに指揮をするのはとても無理で、経験を積むことの大切さを痛感させられた」と澤脇さんは振り返る。

「ここ最近10年ぐらいは演出での活動の方が多い」とも語る澤脇さん。静岡や大阪での演出活動が多いとのことである。特筆する活動としては、みやこオペラ京都主催のオペラ公演で2015年「魔笛」、2016年「蝶々夫人」の演出、2016年「第38回名古屋芸術大学定期オペラ公演」(名古屋市西文化小劇場)にて、オペラ「子供と魔法」と「あまんじゃくとうりこ姫」の演出などが挙げられる。しかし、澤脇さんにとっての演出作品の金字塔は2017年2月の名古屋芸術大学・名古屋市西文化小劇場第1回連携公演「魔笛」を実験的な新演出で手掛けたことである。宇宙をイメージし、天体の映像を背景に映して、王子タミーノが序曲の中で、木星・金星・土星を巡り最後に地球に降り立つ。神官ザラストロにはライトセーバーを持たせ、タミーノと戦うという場面を構成するという画期的なものだった。「変わった演出、あり得ないような背景、さらにこんなことがあるの?という挑戦を盛り込み、オリジナリティーを出した。そうすることで、初めてみる方にも興味を持ってみていただける。現代的に映像を駆使することが、これからの聴衆に受け入れていただきやすかったのでは」という手応えをのぞかせる。



「日本の夜明け」プログラム



2017年名古屋芸術大学・名古屋市西文化小劇場 第1回連携公演「魔笛」①





2017年名古屋芸術大学・名古屋市西文化小劇場 第1回連携公演「魔笛」②

声楽家としての活動以外にも、演出や指揮を手掛けたエピソードを何うなかで印象的だった言葉が、『客観的に捉えることの難しさ』であった。「良いと思って歌ったり、振り付けたりしたもので、記録ビデオ等で振り返ると思っていたものと違っていたりする。また、凝りすぎたり力が入りすぎている時などはあまり良くないと感じる。やはり自然に行った時の方が良かったということが多々ある。ゆるぎない自信を持っている方ならいいだろうが、自分は演出助手やスタッフと相談をしながら、演出等を進められるといいな。上手くいっている時は、パズルが組み合わさる様にどんどん進むが、行き詰った時は特に相談できるスタッフが欲しい。歌う時にもコレパティ(注3)などアドバイスをしてくれる方がいるといいな…。音楽家は皆、自分なりのイメージや思いを持って音楽をつくるのだが、わたしは第三者の客観的な意見も取り入れたい」と澤脇さんは語られた。

## 名古屋演奏家ソサエティーの代表として

澤脇さんの大きな業績として、名古屋演奏家ソサエティーの活動は欠かすことはできない。名古屋で活躍する出田光代氏をはじめとした音楽仲間とともに1981年に名古屋演奏家ソサエティーを結成する。始めは「フィガロの結婚」などの既成のオペラを上演していたが、経費がかかるため、既存のオペラ団体と競争にならず、差別化もはかれないということもあった。そこで瀧本晴都子氏が台本を手掛け、森彩音氏が作曲を手掛けるという体制を組み、2001年「桶無用」公演の反応を踏まえ、創作オペラ制作へと舵を切った。そして、2007年「鶴」の公演からはプロデューサーに関根正氏(株式会社若尾総合舞台元会長)という強力なバックアップを得たことで、飛躍的に活動規模を拡大することになった。関根氏は2013年に逝去されたが、関根氏の活躍により名古屋演奏家ソサエティーの活動はこの地で一層定着することができた。2016年6月には中電ホールにて「35周年記念コンサート～初夏に贈る名曲の調べ～」、同じく12月には名古屋市芸術創造セン

ターにて「35周年記念公演オペラジャパネスク閻魔街道 夢ん中」を開催するなど、輝かしい歴史を刻み続けている。



2016年名古屋演奏家ソサエティー35周年記念公演「閻魔街道 夢ん中」プログラム

一方でこの団体でも抱える課題だが、メンバーの高齢化という大きな課題が立ちはだかる。「ここまで続けてきたものを次の世代にも残していきたい。このままではいつかは自然消滅してしまう。また、男性歌手もいるが、皆さん会社勤めをしながらオペラ活動を続けている。仕事との折り合いをつけて参加してくれているが、年齢を重ねるにつれ、体力的にもきつくなってくる。60歳を過ぎるとやめてしまう方も多い」と危機感を募らせる。

## 若い音楽家へのメッセージ

「音楽は人と人との関係の中で生まれるもの。音楽で喜んでもらい、元気になって欲しい」と音楽への思いを語る。澤脇さんは今年度で大学を退職されるとのこと。だからこそ最近の学生の姿勢を危惧している。「ずっと不景気な中で育ったためか、なかなかモチベーションが上がらず、お金がないから何もできないというあきらめの気持ちが感じられる。既成の団体に参加する若者も少ない。かつては藤原歌劇団や二期会なども、先輩たちが何もなかったころから築き上げた。若者にはやりたいという気持ちを育み、思いきって行動に移して欲しい」とエールを送る。

澤脇さんは、これまでバリトン歌手の活動とともに、指揮、演出を手がけてきたが、「今から他に何ができるか」と若々しく意欲を燃やす姿が印象的であった。今後の更なる挑戦に期待したい。

(注1) ソルフージュ：視唱、読譜、聴音などの能力を養う音楽の基礎教育。

(注2) カデンツ：独奏部分。

(注3) コレパティ：コレパティトゥアの略で、オペラ歌手に音楽稽古をつけるピアニスト。

# ピックアップ

## 芸能集団・創の会 創作舞踊劇「名古屋城天守物語」

新型コロナウイルス禍で多くの公演が中止や延期となる中、意欲的にこの冬の公演開催を目指して奮闘している団体がある。日本舞踊家・五條園美さんが率いる芸能集団・創の会による創作舞踊劇「名古屋城天守物語」だ。



名古屋城天守物語チラシ 表

創の会とは、名古屋で活動する日本舞踊家を中心に舞台芸術家が集まり、分野や流派を超え、舞台芸術の発展と地域の活性化や情操教育の促進に貢献することを目的として平成30年10月に創立された団体である。初演となる本公演の脚本・演出は伊豫田静弘さん。伊豫田さんはNHK大河ドラマの演出で有名だが、舞台の演出も数多く手がけている。この公演は名古屋城天守の穴蔵から盗まれた金の延べ棒をめくり、天守を預かる御鍵奉行が本丸を守る櫓の姫君たちを調べていく推理ドラマ。

主演の鯨姫を演じる工藤寿々弥さんをはじめ、各櫓を模した役どころの姫君たち。清須姫を稲垣舞比さん、<sup>うしとら</sup>丑寅姫を五條園千代さん、<sup>たつみ</sup>辰巳姫を結月櫻さん、ひっさる姫を花柳磐優愛さんが演じる。加えて花柳貴人生さん、内田るり千鶴さんから流派を超えた当地域の日本舞踊家たちが出演する。演劇界からはストーリーテラーでもある御鍵奉行に大嶽隆司さん、侍女役にいのこ福代さん、洋舞界からは、ゆかりバレエ代表の神原ゆかりさんをはじめ、多彩な出演者がそろそろ。劇中曲もすべて新作で作曲は常磐津を常磐津綱男さん、長唄を杵屋三太郎さんと本稿執筆の杵屋六春、箏曲を箏曲正絃社の野村祐子さん、作調を望月左登喜美さんが担当するなど、シーンごとに多彩な音楽が奏でられる。

会の代表・五條園美さんは「こんな時だからこそ、多くの皆さまに楽しんでいただきたいと公演開催を決断しました。お客さまには安心してご覧いただけるよう、万全の準備をいたします。出演者一同、マスク着用、検温を実施し、三密に気をつけながら稽古に励んでいます。ぜひ劇場に足をお運びください」と話す。公演は令和2年12月12日(土)・13日(日)13時・17時の計4回。場所は名古屋市芸術創造センター。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、客席の使用を半数に制限する予定。あわせて12月11日(金)のゲネプロ(本番同様に実施するリハーサル)も特別に公開。こちらは18時30分からの開演で本番DVDが進呈される。入場料は全指定席A席5,000円、B席4,500円。問い合わせは、芸能集団・創の会事務局052-881-6684まで。



名古屋城天守物語チラシ 裏

公演は令和2年12月12日(土)・13日(日)13時・17時の計4回。場所は名古屋市芸術創造センター。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、客席の使用を半数に制限する予定。あわせて12月11日(金)のゲネプロ(本番同様に実施するリハーサル)も特別に公開。こちらは18時30分からの開演で本番DVDが進呈される。入場料は全指定席A席5,000円、B席4,500円。問い合わせは、芸能集団・創の会事務局052-881-6684まで。

(杵屋 六春)

# いとしの サブカル

## 映画に最上級の片思いを

つばい あつし  
シネマスコール副支配人 **坪井 篤史**

1978年生まれ。名古屋市出身。本当に映画しか知らずに生きてきた映画狂人。シネマスコールには2001年から勤務、現在副支配人。ときどき愛知淑徳大学で非常勤講師、ときどきテレビレギュラー出演(東海テレビ「映画MANIA」)。自分が被写体のドキュメンタリー「劇場版シネマ狂想曲～名古屋映画館革命～」なんて作品もできちゃいました。



小学3年生の時に会ってしまった「映画」という一生片思いできる大好きな文化。映画との出会いは9歳のときに突然やってきたのですが、なぜかその時以来、僕は死ぬまで「映画」と一緒に生きて暮らすのだとブレずに思っている頭のおかしい人間です。小学生の頃は映画監督になりたかったのですが、だんだん成長していくと現実をちゃんと知るようになります。それでも正直高校生ぐらいまでは映画解説者が評論家になりたいと思っていました。その夢もさらに現実を知ると映画館で働くことが一番現実味を帯び、そのうえ毎日映画と暮らしていけることも判明しました。大学生の時はとにかく数をたくさん観たいと思い、シネコンで働いていたのですが、あまりにもたくさんの映画を観すぎて大学は卒業間近の4年生の秋に中退。その中退をきっかけに一層僕の映画熱は暴走。シネコンでは自分と映画の距離がなかなか縮まらないので、よりコアに映画と暮らしていけるミニシアターの門を叩きました。そして現在の職場、シネマスコールではや20年近くの勤務となりました。

シネマスコールでは映画で好きなことをたくさん企画させてもらいました。もちろん毎月の上映作品のプログラム

からイベントまで、「映画のことで、怒られない限りだったら何でもしてもいいよ」という上司の本全支配人の方針の下、生きてきました。そして、いつかどこかで誰かに映画の面白さを伝えたいと思うようになりました。そんな時、大学で映画の講義をやらせていただけるチャンスをいただきました。折角なので、誰もやったことのない講義にしたいなと思い、“誰も知らない、または知っても何の得にもならない”映画たちを紹介する講義に挑戦してみました。実は今の大学生の皆さんはほとんど映画を観ない、または全く観ません。でもなぜか映画の講義は人気で、適当に課題の映画を観て、適当にレポートを出せばなんとなく楽ができる授業だという印象があるからのようです。それを知った僕はどんな作品を紹介しても映画として評価してもらえる可能性が高いなと思い、学生の皆さんに「トマトが人間を食べる映画があるんですけど知ってます??」と切り出し、実際にその映画を紹介したところ、学生の皆さんに「映画はこれでいいんだ!」と気づいてもらえました。その瞬間は今でも鮮明に覚えています。

好きなことで生きるとは難しいのか。僕は全くそんなこと思いません。だって一度しかない人生を好きなことで生きていけない自分が自分に失礼とってしまいます。生まれ変わったらまた同じ人生を過ごせる確率の方がうんと低いワケで、ならば好きなことは大好きだと公言して生きて、仕事にした方が自分に嘘をつかない人生を生きているように思います。だから僕は死ぬまで映画が大好きでいたい。勝手に片思いしてるけど、結局両想いになることは一生無いから、まだまだ映画のこと、好きになるつもりです。そんな危ない人間が働いているシネマスコール、皆さん一度は遊びに来てください。なんとなく好きだった映画がより大好きになれる映画館だと思います。お待ちしております!



### シネマスコール

JR名古屋駅太閤通口より西へ徒歩2分。

TEL 052-452-6036



# やっとかめ文化祭2020

時をめぐり、文化を旅する、まちの祭典。

芸どころ名古屋舞台  
クール・ジャパンの宝物

## 日本の話芸「怪談づくし」

日時：11月1日(日) 16:00  
料金：一般3,000円 学生1,500円【全自由席】  
会場：名東文化小劇場 Pコード：502-856

## 狂言「蟹山伏」 ろうそく能「安達原 白頭」

日時：11月7日(土) 14:00  
料金：一般3,000円 学生1,500円【全自由席】  
会場：名古屋能楽堂 Pコード：502-858

## ～日本舞踊で描く古典文学怪異譚～

日時：11月13日(金) 18:30  
料金：一般3,000円 学生1,500円【全自由席】  
会場：名古屋能楽堂 Pコード：502-861

## チケット取扱い

○名古屋市文化振興事業団チケットガイド  
TEL：052-249-9387(平日9:00～17:00/郵送可)  
そのほか事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日も営業)でも  
お求めいただけます。

○チケットぴあ  
TEL：0570-02-9999  
※セブン-イレブン、中日新聞販売店  
でもお求めいただけます。



### 新型コロナウイルス感染拡大防止のためのお願いと主催者の取り組みについて

●発熱や咳、呼吸困難、咽頭痛、味覚障害などの症状がある方や、2週間以内に感染が拡大している国・地域への訪問歴がある方は、ご来場をお控えください。●マスク着用、手洗い、手指の消毒、検温にご協力ください。発熱が確認された場合、マスク着用がない場合は入場をお断りします。●新型コロナウイルス感染が発生した場合に、速やかにご連絡を差し上げるため、チケットにあらかじめお名前・お電話番号をご記入ください。事前にご記入の無い場合は会場にてお名前・お電話番号等をご記入いただけます。●お客様同士の安全な距離の確保にご協力ください。また、大きな声での会話はできるだけお控えください。●出演者への贈り物や面会はできません。  
(主催者の取り組み)●手すりやドアノブ等の定期的消毒 ●空調システムによる常時換気 ●スタッフのマスク着用、手指の消毒、手洗い、うがい等の徹底と検温

## 「なごや文化情報」に関するアンケートのお願い

右記の質問にご回答いただき、FAX、Emailまたは郵送にて**12月21日(月)【必着】**までにお送りください。ご回答いただいた方の中から**抽選で20名様に名古屋市文化振興事業団の主催事業鑑賞補助券500円分をプレゼント**いたします。  
※当選の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。お預りした個人情報につきましては、当該アンケートの事務連絡のみに使用させていただきます。

- 内容について、どう思われますか。  
①よい ②まあよい ③あまりよくない ④よくない
- 「なごや文化情報」の中で関心を持つ記事はなんですか。(複数回答可)  
①表紙 ②名古屋市民文芸祭受賞作品 ③随想  
④視点 ⑤この人と ⑥この人と…ズームアップ(1・2月号のみ掲載)  
⑦ピックアップ ⑧いとしのサブカル ⑨1年をふりかえって(3・4月号のみ掲載)
- 今まで「なごや文化情報」をお読みになって感じたことをご記入ください。
- 今後「なごや文化情報」で取り上げてほしい話題や、コーナーがありましたら、ご記入ください。
- ご回答いただいた方の①お名前 ②性別 ③年代(30代など) ④郵便番号 ⑤ご住所 ⑥電話番号

【宛て先】〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク8階  
(公財)名古屋市文化振興事業団・文化情報アンケート係  
FAX:(052) 249-9386 Email:tomo@bunka758.or.jp

頼もしい味方をお探しですか？



集客・販促プランナー      アートディレクター      印刷コンサルタント

**駒田印刷株式会社 TEL(052)331-8881**

〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 <http://www.kp-c.co.jp>

WE MAKE YOU MOVE  
感動をあなたへ

20Hz ← → 20kHz



**A&V**  
PRO AUDIO & VISUAL & NETWORK  
舞台音響 / 映像設備  
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

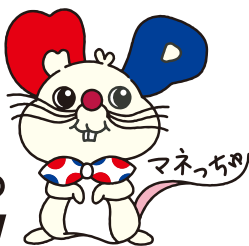
お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する  
**株式会社 エーアンドブイ**  
〒464-0846 愛知県名古屋市中区千種区城木町二丁目98  
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

公演・発表会の受付から制作業務全般まで、何でもご用命ください。美術展の受付も対応いたします。

### 業務内容

- ①舞台の企画・制作マネジメント
- ②イベントの企画制作
- ③芸術団体のコンサルティング
- ④舞台・イベントの運営

**MP MANAGEMENT PRO**  
**株式会社 マネージメント・プロ**



〒461-0008 名古屋市中区東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル305

TEL:(052)508-5095

FAX:(052)508-5097

Web:www.mane-pro.com

E-mail:mane-pro@mane-pro.com

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

**ナゴヤ劇場ジャーナル**

- ◎年間6,600円で毎月お手元にお届けいたします。
- ◎毎月24,000部発行

※東海地方の演劇・バレエ・音楽公演、ホール、DM等にて配布